広報にいつ
発行所 新津市役所 電話 代表550番
発行人 窪田繁雄
印刷所 東洋館印刷所
毎月一回5日発行
(定価一部2円)

大塔建設に本腰

窪田市長も県下各地へ浄財募金行脚

仏舎利塔 市民の全面的協力を切望

小宝塔建立後、藻染や市村合併など種々の事情遅に大宝塔建設の決意を固められる現状から、市では急迫にも至ったものである。現在までに約百五十万円の浄財を得たまま一時的に中断されたが、拙近十月の参詣人をその裏付から推してみると月平均約三千人に及んでおり、そのほか賽銭をあげなかった人もかなりあるかと、その家族の祈願のため、千円以上の寄付をする参詣人が、何よりも地元市民の物心両面の支援がカギとなっており全面的な協力を求めている。

大宝塔建設への道としては、まず米寄せ、小宝塔周辺を整え、休憩所や集会所をその他寄附などの美化施設などが行われる。

なお募金目標は五千万円で、市内からは地元と合わせ三百万円の計画であるが、千円以上の寄付者は次の通りである。

宝塔に名を刻む 千円以上 寄付者

(敬称略)

三億円 第四銀行、北越銀行

五千万円 大光、新潟相互銀行、県商工信用協同組合

三千万円 新潟信用保証協会

一千万円 新潟県信用保証協会

五百万円 県農業信用保証協会

三百万円 県農業信用保証協会

百万円 新潟市

五十万円 新潟市

三十万円 新潟市

二十万円 新潟市

十万円 新潟市

五万円 新潟市

三万円 新潟市

二万円 新潟市

一万円 新潟市

五千円 新潟市

三千円 新潟市

二千円 新潟市

一千円 新潟市

五百円 新潟市

三百円 新潟市

二百円 新潟市

一百円 新潟市

五十円 新潟市

三十円 新潟市

二十円 新潟市

十円 新潟市

五円 新潟市

三円 新潟市

二円 新潟市

一円 新潟市

秋桜子 ふるさとのあまの川瀬や天の原

鮭とり

昭和三十一年度の固定資産の評価、特に土地の評価については、市村合併後初めての評価である事から、こんど固定資産評価均衡調査委員会を設けつつある。

◇…朝モヤの川瀬に糸を流して、とり、とり、ぐっとる手ごたえ——初めの味覚、阿賀野川の鮭は、今を盛りの産卵を目指して、ひたすらさかのぼる。

◇…上流では流しガギ下流は地引アミで獲るが、その地引アミもいまは鮭の目をくらますためにニール製にかわった。

◇…獲る時刻は早朝か夜間で昼間はダメ。上流は水色白濁から瀞川、下流は濁越かから新津地内にかけて熟獲は、下流が大きく二貫五百目から三貫目のものが多いが、上流小あ貫目前後が多いが、ときは、下流が大きく二貫五百目から三貫目のものが多いが、上流小あ貫目前後が多いが、ときは、下流が大きく二貫五百目から三貫目のものが多いが、上流小あ貫目前後が多いが、

市庁年末支払

12月21日から24日まで

11月末までに請求書提出分

年の瀬をむかえて市では特に年末支払計画に基き資金の準備を完了各業者に対して支払ができるよう手続も終ったが十一月末日までに現品を納入し請求書も提出している向は次の期間中に支払われる。

なお契約等により支払期日の決定しているものの又は書類の不備による場合は支払われないことになっている。

支払場所 収入役室窓口

支払期日 十二月二十日から十二月二十四日まで。

土地評価地区別に調査

31年度固定資産評価に調査委設置

突状に即した適正評価を行うことは重大な課題である。

これは新津市の規準をもって一律に評価替えを行うと、一部に不合理な面が生じてくるおそれもあり、これを是正し、機械的な評価をさけて、

審査委員会で推奨土産品の審査

推奨土産品13点

第一回市推奨品決る

土産品の、観光土産品を開いて、優良土産品の育成振興をはかって、市では毎年土産品試作求評会を開いて、これまでに、当市の世帯数は九千五百四十四世帯で、昭和二十五年国勢調査に比べ五百六十九世帯増加している。

昭和三十年国勢調査による人口は、五千三百九十二人で前回より四六百二人、女千二百六十三人、総人口は千八百四十七人、男千四百三人、女千二百六十三人、総人口は千八百四十七人、男千四百三人、女千二百六十三人、総人口は千八百四十七人、男千四百三